

2011年4月12日 志を同じくするコミュニティー「一志会」の第3回会合が開催されました。

「一志会」は、一人一人が、とりわけ社会的に影響を持つ企業経営者が「公の精神」をもって積極的に社会との関わりを持っていくことが必要だ、との認識のもとに発足した新しい形の”コミュニティー”です。この趣旨に賛同した主に大企業の経営者が各分野から参加されていますが、4月12日に新たに3名の会員も加わり、第3回の会合を開催しました。



今回は、東日本大震災で犠牲になられた方々のご冥福をお祈りして全員で黙祷を捧げた後、リスクマネジメントの第一人者である国際危機管理機構(株)の金重凱之社長(元警察庁警備局長)と日本芸術院会員でわが国洋画界を代表する絹谷幸二画伯をゲストとしてお招きし、卓話を頂きました。

金重氏からは、「あなたは次の地震災害から救われるか～企業が直面する震災リスク～」と題して、今回の大地震発生によりわが国での大規模地震発生の確率が高まってきたことを認識し、企業はその備えに真剣に取り組むべきであること、実際に発生した時に本当に機能する体制はどうあるべきか、取り組むべき優先順位はどうすべきか等と、混乱が避けられない非常時の実践的・効果的な対応のポイントなどを具体的にお話しいただき、メンバーもメモを取りながら熱心に聞き入っていました。

また、絹谷画伯からは、「危機と芸術」と題して、古来、日本では自然の威力を認識して災害を避ける智慧が磨かれてきたこと、世界でも危機を経験する中でその後の復興を目指す智慧が培われ、絵画などの芸術が新たな進化をとげて人々を鼓舞してきたなどと、スケールの大きな興味深いお話しを伺いました。

この後、新規メンバー紹介やメンバーズのスピーチを挟みながら、交流タイムとなり、意見交換などゲストも交えた話し合いの輪が予定時間を超えて続きました。

